

学生のアイデアを区政に活用

SDGs広報グッズを制作

大阪成蹊大学

「徳があり、人に慕われ、信頼される人を育てる」とを教育目標として掲げる大阪成蹊大学（大阪市）

の芸術学部造形芸術学科の学生が提案した「エコバッグ」と「カレンダー＆シール」が、大阪市東成区内で実施されるSDGs学習および食品ロス学習イベントなどで活用される。

を期待できる。

また、カレンダーは冷蔵庫に貼付可能なサイズで作成。イフスト等で分かりやすく表示されており、シールを貼ることで食品購入日を忘れるのを防ぎ、食品ロス削減に効果的だ。

作品の制作に当たり、同

学科ビジュアルデザインコース4年次・戸部京佳さん（大阪成蹊女子高等学校出身）は、「SDGsに関して子どもたちに興味を持ってもらうためにはどのような工夫が必要なのかを意識し、制作しました。区役所

麻野篤区長は「芸術学部らしいセンスあふれるアイデアをたくさんいただきました。今回の取り組みを通して身につけた複眼的思考力や課題解決力を活かした今後の活躍を大きく期待しています」と、熱いエールを送った。

作品は、東成区役所1階ふれあいパンジーにおいて、11月27日から12月28日まで展示されている。

エコバッグは食品廃棄物等に占める食品ロスの割合を示す円グラフをイメージしたデザインとなっている。子どもたちが自由に絵を描き加えることができるように色味を抑えた薄いベージュ色でプリントされている。デザインを通して食品ロス問題を分かりやすく伝えると共に、子どもたちが実際に自分の絵を描くことによって、高い学習効果

の方々とは度もミーティングを重ね、制作物をより良いものにするために話し合いをすることができ、とても貴重な経験をさせていただけだと思います」と、制作を振り返った。

同大と同区は令和元年に連携協力に関する協定を締結した。まちづくり、コミュニティ育成、市民協働、文化、教育、芸術、環境などの分野においてそれぞれの活動の充実を図ると共に、地域社会の持続的な発展に資することを目的としてさまざまな取り組みを進めている。



子どもにも分かりやすいデザインを心がけて制作